



## 学習評価で大切にしたいこと

### 2 学年間を見通した題材計画

家庭科では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織した題材を構成し、教科目標の実現を目指しています。そのため、2 学年間を見通した題材の計画的な配列が必要です。題材計画に合わせた題材目標や評価規準を設定しましょう。

### 実践的・体験的活動と評価

日常生活に必要な知識及び技能は、実践的・体験的な活動を通して児童が習得します。児童の発達の段階や学習のねらいを考慮して製作、調理等の実習や、観察、実験等、適切な学習活動を設定し、評価を行います。

## 評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す家庭科の「評価の観点及びその趣旨」を確認して評価の基本的な枠組みを捉えます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

なお、家庭科では、「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及び指導事項に関係する部分を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：B 衣食住の生活  
項目：（5）生活を豊かにするための布を用いた製作  
※家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を含め、教科の目標（3）や学習内容に応じて設定します。

- Ⅰ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとすること）
- Ⅱ 自らの学習の調整（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりする中で自らの学習を調整しようとする）
- Ⅲ 実践しようとする態度（生活を工夫し、実践しようとする）

### Point

題材の評価規準を作成する時には、下線の部分に学習指導要領に示す項目（内容のまとめり）を設定します。

第5学年 内容B（5）生活を豊かにするための布を用いた製作

題材の評価規準例 家族の一員として生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり（Ⅰ）、振り返ったりして（Ⅱ）、生活を工夫し、実践しようとしている（Ⅲ）。

## 3 観点を評価する上での留意点

### 知識・技能

主に家庭生活に関する内容を取り上げ、日常生活に必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けているかどうかを、ペーパーテストや技能の確認テスト、実習を通じた実践記録表や行動観察等から評価します。

### 思考・判断・表現

習得した知識及び技能を活用し、身近な生活の課題を発見、解決する力等が身についたかどうかを、問題解決的な学習の中で評価します。解決方法を考え、実践し、振り返る場面等を捉え、自分の考えを理由を明確にして分かりやすく説明できるかをワークシートの記述や発言等から判断します。

### 主体的に学習に取り組む態度

家族の一員として生活をよりよくしようと知識及び技能を活用しているか、考え工夫しているか、実践しようとしているかを評価します。題材の中で事前に評価時期を定め、ポートフォリオや実践記録表等の記述や行動観察等から評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

努力を要する状況と判断される児童への支援と手立てを考えるための評価です。評価後は、例えば段階見本や拡大写真、タブレット端末等で動作の動画を見せる等、個に応じた指導の工夫が大切です。

2 問題解決的な学習の中で評価場面を位置付ける

家庭科では、家庭生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて目指す資質・能力を育成します。問題解決的な学習の中で、日常生活に必要な知識及び技能の習得や課題を解決する力が養われたか等を評価できる場面を精選し、位置付けましょう。

(例) 第5学年 内容B (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ◇ 題材名 手縫いでオリジナル小物を作ろう  
◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ②手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。	①生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだし課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	・身の回りの針と糸を使って作られているものを振り返る。 ・裁縫用具の種類を知る。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・裁縫用具の種類が分かっている。
2 3	・玉結び、玉どめ、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを練習する。	知	○	[知・技②] (観察・練習布) ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを理解し、適切にできる。
4 5	・玉結び、玉どめ、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを理解し、適切にできる。	知	○	[知・技②] (観察・試験布) ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを理解し、適切にできる。
6	・オリジナル小物の作品の設計図を考え、製作計画を立てる。	思	○	[思・判・表①] (設計図・製作計画表) ・生活を豊かにするためのオリジナル小物の製作図や製作計画について考え、工夫している。
10	・オリジナル小物の作品発表会をして、工夫点等を伝え合う。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察・作品) ・生活を豊かにするためのオリジナル小物の製作について振り返って改善して生活を工夫しようとしている。

指導に生かす評価

練習の時間に、見本と同じように縫える児童やそうでない児童を把握し、個別の支援に生かすための評価です。

記録に残す評価

目標とした手縫いの技能が身に付いているか、練習と同様の内容を実践し、見本と比較して評価し、総括に生かします。

\*例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準がより具体的になった児童の姿 [思・判・表①]

オリジナル小物の作品発表会を通して、生活を豊かにするために自分が工夫した点を理由を付けて説明したり、発表会后に友達の意見を聞いて更なる改善を考えたりしている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・児童が、実感を伴って理解したことが具体的に記述できるように生活場面を想定した体験的な活動を実施する。
- ・事前に予想される児童の考えや工夫を複数予想する。

評価方法の例

- ・実習に関する計画や、考え工夫したことを記録した実践記録表
- ・実験や実習時の行動観察



## 学習評価で大切にしたいこと

### 問題解決的な学習と評価

技術分野で目指す資質・能力は、単に何かをつくる活動だけで育成できるものではありません。問題解決的な学習を通して、知識と技能、課題解決力、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養います。知識・技能のみを重視した評価とならないようにすることが大切です。

### 発達段階に合わせた評価の視点

評価規準を設定する際に参考とする学習指導要領解説は、第3学年を念頭に書かれています。指導する学年が第1学年の場合は、問題を見いだす範囲を生活としたり、解決する際に配慮する視点を、安全性に限定したりして設定するなど、発達段階に合わせた視点で見取ることが必要となります。

## 評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す技術分野の「評価の観点及びその趣旨」を確認して評価の基本的な枠組みを捉えます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

なお、技術分野では、「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及びその要素を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：A 材料と加工の技術

項目：(1)生活や社会を支える材料と加工の技術

※技術・家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を全て含め、題材の目標や学習内容等に応じて設定します。

- Ⅰ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面）
- Ⅱ 自らの学習の調整（Ⅰの中で自らの学習を調整しようとする側面）
- Ⅲ Ⅰ、Ⅱの学びの経験を通して涵養された、技術を工夫し創造しようとする態度

第1学年 内容「A 材料と加工の技術」

内容Aの項目(1)、(2)、(3)をまとめて一つの題材で指導する際の評価規準の例



題材の  
評価規準例

よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり（Ⅰ）、振り返って改善したり（Ⅱ）して、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている（Ⅲ）。

### Point

必要に応じて分野別の評価の観点の趣旨を基に、「内容のまとめり」ごとの評価規準の要素を加える等（下線の部分）、題材の評価規準を設定します。

## 3観点を評価する上での留意点

### 知識・技能

基礎的な技術について、その仕組みの理解やそれらに係る技能の習得状況を評価します。技術に関する科学的な原理・法則とともに、技術と生活や社会、環境との関わり及び生活等の場面でも活用できる技術の概念の理解も評価します。

### 思考・判断・表現

技術を用いて生活や社会における問題を解決するための思考力、判断力、表現力等が育成されたかを評価します。指導する学年や、学習過程の中の位置付けを踏まえ、思考力等の発揮している具体をイメージした上で評価することが大切です。

### 主体的に学習に取り組む態度

進んで知識及び技能を獲得しようとしていたり、課題を解決しようとしていたりしながら、技術を工夫し創造しようとしているかを評価します。観察以外にレポートや設計図、振り返りカード等の記述や、評価資料のポートフォリオを時系列で比較し、総括して評価します。

## 題材・本時における学習評価の進め方

### 題材における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

**1 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」**  
 実現するために何時間かの指導が必要な目標については、指導の前半で学習状況を見取り、必要な生徒に対して個別の指導を行います。指導の後半で、その目標の実現状況が把握できる段階で記録に残す評価を行います。

**2 主体的に学習に取り組む態度の評価**  
 「生活や社会を支える技術」を理解する場面では、技能を評価する場面が少ないので、「技術による問題の解決」と合わせて複数の学習活動に共通するよう評価規準を整理・統合し、同じ規準で評価することができます。

(例) 第1学年 内容Aの授業

◇ 題材名 材料と加工の技術によって、生活に役立つ整理箱をつくらう

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、材料と加工の技術と安全な生活や社会とのかかわりについて理解しているとともに、製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検ができる技能を身に付けている。	生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、安全な生活や社会の実現を目指して材料と加工の技術の評価し、適切に選択、管理・運用する力を身に付けている。	よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全20時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
1 ・ 2	・3年間の学習の見通しをもつ。 ・社会や生活で使用されている整理棚や小物入れの工夫について調べる。		○		[思・判・表] (レポート) ・材料と加工の技術にこめられた工夫を読み取り、材料と加工の技術の見方・考え方に気付いている。
7 ・ 8 ・ 9	・設定した課題に基づき、材料の選択や成型の方法を検討し、製作したい製品を構想して必要な図をかき。	○	○	○	[思・判・表] (ワークシート) ・製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などの設計を具体化し、表現できる。 [知・技] (設計図) ・製作に必要な図をかき表すことができる。

**指導に生かす評価**

第6時で得た知識を生かして製作に必要な図をかき第7時では、「努力を要する」状況になりそうな生徒を見取り、必要な支援をしています。

**記録に残す評価**

第9時で、製作に必要な図をかき表すことができているかを評価規準に照らして評価し記録します。

\*例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

### 本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例【思・判・表】

自らの構想についてワークシートや設計図に具体化し、発表するとともに、互いの構想について使用目的や使用条件などを確認した上で、必要な条件を踏まえて検討し、互いの構想がよりよくなるように意見を述べている。

#### Point

**具体的な生徒の姿を設定するために**  
 構想図を基に実現可能な設計図をかけているかや、記述している言葉や発言が設計図等を改善するための具体的な内容で表現できているか、生徒の姿のイメージを明確にします。

#### 評価方法の例

- ・自らの構想を記入したワークシートや、それらを具体化した設計図
- ・話し合いの様子等を観察したメモ
- ・互いの構想に対する考えの意見や記述



## 学習評価で大切にしたいこと

### 3 学年間を見通した題材計画

家庭分野では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織した**題材**を構成し、分野の目標の実現を目指しています。そのため、3 学年間を見通した題材の計画的な配列が必要です。履修学年を踏まえた題材計画や目標、評価規準を設定しましょう。

### 実践的・体験的活動と評価

生活の自立に必要な基礎的な知識及び技能は、実践的・体験的な活動を通して生徒が習得します。生徒の発達段階や学習のねらいを考慮して製作、調理等の実習や、観察、実験等、適切な学習活動を設定して評価を行いましょう。

## 評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す家庭分野の「評価の観点及びその趣旨」を確認して評価の基本的な枠組みを捉えます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

なお、家庭分野では「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及び指導事項に関係する部分を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：C 消費生活・環境  
項目：(2)消費者の権利と責任  
※技術・家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を含め、家庭分野の目標（3）や学習内容に応じて設定します。

- Ⅰ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとすること）
- Ⅱ 自らの学習の調整（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりする中で自らの学習を調整しようとする）
- Ⅲ 実践しようとする態度（生活を工夫し、実践しようとする）

### Point

題材の評価規準の作成時には、下線の部分に学習指導要領に示す項目（内容のまとめり）を設定します。

第3学年 内容C（2）消費者の権利と責任

題材の評価規準例：よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり（Ⅰ）、振り返って改善したりして（Ⅱ）、生活を工夫し創造し、実践しようとしている（Ⅲ）。

## 3 観点を評価する上での留意点

### 知識・技能

主に家庭生活に関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けているかどうかを、確認テストや実践記録表、実習を通じた行動観察等から評価します。

### 思考・判断・表現

習得した知識及び技能を活用し、家族・家庭や地域における生活の課題を主体的に捉え、具体的な実践活動を通して課題を解決する力が養われたかを問題解決的な学習の中で評価します。一連の学習過程の場面を捉え、自分の考えの根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明できるかを記述内容や発言等から判断します。

### 主体的に学習に取り組む態度

よりよい生活の実現に向けて、知識及び技能を活用しているか、考え工夫しているか、実践しようとしているかを評価します。題材のまとめりの中で事前に評価時期を定め、ポートフォリオや実践記録表等の記述や行動観察等から評価します。

## 題材・本時における学習評価の進め方

### 題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

#### 1 指導に生かす評価とは

努力を要すると判断される生徒への支援と手立てを考えるための評価です。例えば、図や写真のヒントカードを示したりワークシート等で学びを振り返る等、個に応じた指導を工夫することが大切です。

#### 2 問題解決的な学習の中で評価場面を位置付ける

家庭分野では、実生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて目指す資質・能力を育成します。問題解決的な学習の中で、生活の自立に必要な知識及び技能の習得や課題を解決する力が養われたか等を評価できる場面を精選し、位置付けましょう。

(例) 第3学年 内容C (2)消費者の権利と責任 の授業

◇ 題材名 私たちの消費生活

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	①自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全6時間)

時	主な学習活動	重点	記録	2 評価規準・評価方法	指導に生かす評価
1	・自分や家族の消費生活に関心を持ち、自分の消費行動の課題に気付く。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・自分の消費行動について問題を見いだして課題を設定している。	題材の前半で、持続可能な社会の構築等の視点から、適切な選択、購入について考えがもちにくい生徒を把握し、個別の支援に生かすための評価です。
3	・身近な商品の選択、購入場面を取り上げ、適切な選択、購入とはどんなことに気を付ければよいかを考える。	思		[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・商品の適切な選択、購入について考え、工夫している。	
4	・消費者被害の背景を知り、その対応について理解する。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・消費者被害の背景とその対応について理解している。	
5	・消費者の権利と責任について理解し、消費者として自覚ある行動について考える。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・消費者として自覚ある行動について考えている。	記録に残す評価 題材の後半で、目標とした力が身に付いているか記述内容から評価し、総括に生かします。
6	・商品の適切な選択、購入とはどんなことに気を付ければよいかを考える。	思 主	○ ○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・商品の適切な選択、購入について工夫している。 [主①] (ワークシート・観察) ・よりよい消費生活について工夫し創造し、実践しようとしている。	

\* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

### 本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準がより具体的になった生徒の姿 [思・判・表①]

商品の選択や購入について、既習の消費者被害や消費者の権利と責任のことを踏まえて具体的な工夫を記述 (例：環境への配慮から詰め替え用商品を選択する) している。

#### Point

##### 具体的な生徒の姿を設定するために

- ・生徒が、実感を伴って理解したことが具体的に記述できるように実践的・体験的な活動を実施する。
- ・事前に予想される生徒の考えや工夫を複数予想する。

##### 評価方法の例

- ・実習に関する計画や、考え工夫したことを記録した実践記録表
- ・実験や実習時の行動観察